

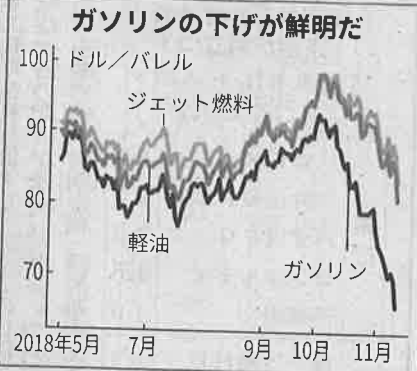
ガソリン、アジアで下落

中国輸出増、日本に波及も

アジアの輸出市場でガソリン価格が下落した。夏場まで上げていたものの精製能力が増えた中国の輸出が膨らみ、10月以降の下げが目立つ。米国の需要減で欧州からも流入しているもようだ。海外安で韓国製ガソリンの日本向け価格は11月で15%下落。日本製との価格差は夏場の2倍に広がった。輸入が増えれば国内のガソリン価格が下がる可能性がある。

アジア市場で指標となるシンガポールのガソリン価格(本船渡し)は10月68ドル前後。10月上旬につけた直近高値に比べ27%下げた。ガソイル(軽油)やケロシン(ジェット燃料)との差は1ドル15セント前後。年初比で3〜4倍に広がるなど、ガソリンの安さが際立つ。中国からの輸出で供給

がだぶついている。経済成長で2010年ごろから年率5%前後のペースで精製能力が増加している。生産が内需を上回り、中国では国内で生産する



中国は余ったガソリンを輸出している(中国の製油所)＝ロイター

ガソリンの1割程度が余剰との試算がある。

供給過剰を防ぐには輸出を増やさざるを得ない。輸出拡大でシンガポール市場で取引されるガソリンの中国製のシェアは17年の約45%から6割に達したもようだ。

欧州からアジア市場への流入も目立つ。石油天然ガス・金属鉱物資源機構の野神隆之首席エコノ

ミストは「10月以降、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツなどの輸出が拡大している」と指摘する。欧州の主な輸出先の米国は原油高を受けた高値でガソリン需要が振るわない。米エネルギー情報局(EIA)によるとガソリンの消費量は9月下旬以降、前年比で1〜3%前後の減少が続く。

シンガポール市場の値下がりも日本向けの輸出が多い韓国製ガソリンにも波及している。輸入価格は現在1キロリットル5万6500円前後とみられる。日本製ガソリンのスポット(業者間転売)価格(京浜地区、陸上物)は

ガソリン税を除くと同6万4500円程度。夏場に1リットル3〜4円程度だった差は8円近くに広がった。店頭価格への下げ圧力は強まっている。主要元売りが輸入品を

意識した価格設定に動いているとの見方もある。11月以降、石油製品間で同額だった卸値の変動幅が変わった。灯油と軽油の値下げ幅(月間の累計値)は1リットル5円。ガソリンは同6・5円だ。

ある商社の担当者は「輸入品の一部流入でスポット価格が弱含み、元売りが自社の販売価格との差を狭めようとしている」と分析する。

商社、春先から輸入増

アジア輸出市場のガソリン値下がり、商社は春先から輸入を増やしている。経済産業省のまとめでは、18年1月から直近9月までのガソリン輸入量は約151万キロリットルの2・5倍超。確認で

きただけで石油元売り以外では商社など5社が輸入したもようだ。韓国製など輸入品の多くはスポット(業者間転売)市場で流通し、元売

り会社のブランド以外の給油所で販売される。

輸入品を調達しやすい西日本で主に仕入、京浜地区に比べ1リットル程度安い(燃料商社)市況の一因とされている。輸入が継続的に続けばスポット市場の価格はさらに下がりそうだ。

輸入品を調達しやすい西日本で主に仕入、京浜地区に比べ1リットル程度安い(燃料商社)市況の一因とされている。輸入が継続的に続けばスポット市場の価格はさらに下がりそうだ。

輸入品を調達しやすい西日本で主に仕入、京浜地区に比べ1リットル程度安い(燃料商社)市況の一因とされている。輸入が継続的に続けばスポット市場の価格はさらに下がりそうだ。